

ふれあいの

里 だより

ハルゼミの歌

5月2日は八十八夜。狭山丘陵あたりでも茶摘みが行われるころです。5日は端午の節句、そして6日は立夏。季節は初夏を迎えます。

ちょうどゴールデンウィークの真っ最中。お天気が気になります。このころハルゼミが



チゴユリ

鳴き始めますが、晴れの日以外は鳴きません。すっきりしないお天気が続いた昨年は、「ムゼームゼー」とも聞こえる独特な鳴き声をほとんど聞くことができませんでした。ハルゼミはアカマツ林に生息し、アカマツとともに数を減らしています。アカマツ保護のためにまかれる薬剤も命を奪っています。今年は何れくらい合唱が聞けるでしょうか。



ハルゼミ

輝く緑の中、ミズキ、エゴノキ、ガマズミなどさまざまな白い花が木々を彩ります。足下では可憐なチゴユリの白い花が見つかるでしょう。ヤマツツジの花にはジャコウアゲハなど黒いアゲハチョウの仲間。梢にはコジャノメなども見られるようになります。

5月21日(日)の午前10時～午後2時30分には、当センターにて、里山体験教室《お茶摘みとお茶作りに挑戦》を開催します。詳細はお問い合わせください。餌をねだるシジュウカラの雛の声も聞こえてきます。光と風の中で自然を感じてみませんか。

申し込み・問い合わせ 狭山丘陵いきものふれあいの里センター（荒幡782 / ☎・FAX2939-9412 / 休館日：毎週月曜日）

大人のための 自然観察会

《初夏の昆虫と植物》

とき 5月27日(土) / 午前9時30分～午後2時30分

集合 早稲田大学正門前

定員 申し込み先着30人(5月2日(火)から受付)

参加費 200円(保険・資料代)

持ち物 昼食、飲み物、筆記用具。お持ちの方はポケット図鑑等

健康づくり

こんにちは保健師です

『失語症ってなんでしょう?』

今回は、なかなか理解されにくい「失語症」について皆さんにお知らせします。失語症とは、脳卒中や交通事故などにより大脳の言語中枢に損傷を受けた結果、「聴いて理解する」「話す」「読む」「書く」等のことがスムーズにできなくなった状態をいいます。程度はさまざまですが、言葉の表現と理解の障害といえます。また、右半身の麻痺を伴う場合が多くあります。

【失語症の主な症状】

- 話すこと…▶ 言いたいことが浮かんでこない▶ 思ったことと違うことを言う▶ 回りくどい言い方になる▶ 前に言ったことを繰り返す
- 聴くこと…▶ 言葉の意味が理解できない▶ 聴いたことを記憶しておけない▶ 早口や長い文が理解しにくい▶ まねをして言っても意味が理解できていないこともある
- 書くこと…▶ 文字を思い出せない▶ ひらがなを理解しにくい▶ 書き誤りがある▶ 助詞を間違える▶ 文章にならない
- 読むこと…▶ 読んで理解することが難しい▶ ひらがなを理解しにくい▶ 声に出して読めても意味が理解できないこともある
- その他の困りごと…▶ 数を扱ったり計算をしたりするのが難しくなるため、買い物などに不自由することがある



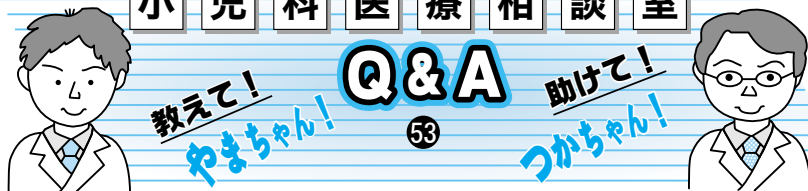
★失語症者への接し方のポイント★

- ① ゆったり、時間をかけて、先回りしないで待つ姿勢が大切。
- ② 言葉かけは、「はい」「いいえ」で答えられるように、選択肢を2～3あげて選べるようにする。
- ③ 文字、身振り、絵なども使ってコミュニケーションをはかる。
- ④ 伝えたいことをくみ取る努力と理解するための勘を働かせる。

皆さんのご家族や身近な方に失語症の方はいらっしゃいませんか? 保健センターでは、「リハビリ相談」や「失語症者のつどい」を行っていますので、ご相談ください。

問い合わせ 保健センター（☎2991-1811・FAX2995-1178）

小児科医療相談室



Q: もうすぐ1歳になる娘のことでご相談します。10か月くらいから、斜視が気になっています。普通にしているときは気にならないのですが、ポーッとしているときや飲み物を飲んでいるとき、左目が外側にずれていきます。気づいたときには視線を戻します。常時斜視ではないので自然に治るか、それとも病院でみてもらうべきか悩んでいます。

A: 私たち人間の目は、全く緊張のないポーッとしているときに、その人本来の位置になります。お子さんの左目がそのようなときに外側にずれているのであれば、左目の外斜視が疑われます。斜視の原因・種類はさまざまですが、普段はちゃんとした位置にあって、ポーとしたときだけ目が移動するのであれば、間欠性外斜視が最も考えやすいと思います。目のずれがはっきり判らないときには、ペンライト等を見させながら、お母さんの手でお子さんの目を左右交互に隠してみてください。手を離すと、目の位置が動いたり、目に写っているライトの光の位置（正常では、瞳孔の中央にライトの光が見えます）がずれていたり、動くようであれば斜視が疑われます。



斜視の症状や治療はその原因・程度によってさまざまですが、乳幼児では、斜視になっているとき「斜視の方の目で見えない」ことが原因で起こる問題があります。それは、目の機能（視力や両眼視機能、特に立体視機能など）は目で物を見ることによって生後早期に出来上がるものなので、この時期に片側の目を使わないと、目の機能に障害が出るということです。常に斜視の状態であれば、その危険性は高いので早期に眼科を受診することがよいと思います。このような場合で、視力が悪ければ良いほうの目にパッチをあてて、悪い方の目で見ると訓練等を行い、その後必要に応じて手術を行うことになると思います。

お子さんの場合のように、普段両目で物を見ている間欠性外斜視であれば、目の機能は良好であることが多いとされていますので、あわてる必要はありません。しかし、目の機能が悪化している場合は、早期診断、早期治療によりかなり回復しますし、斜視の原因はさまざまですので、近いうちに眼科を受診されて、両目の視力や普段の目の位置についてちゃんと調べてもらった方がよいと思います。（藤原）

お子さんに関する相談にお答えします。相談は郵便や下記のアドレスで随時受け付けています。

あて先 〒359-0025・所沢市上安松1224-1

所沢市市民医療センター・小児科相談係

Eメールアドレス yamachan@tokorozawa-iryuu-center.jp

所沢市民憲章（昭和62年3月制定）

所沢市は武蔵野台地の自然に恵まれ
鎌倉街道の拠点として発達し
日本人が初めて大空にはばたいた
記念すべき街である
この歴史と環境の上に立ち
未来に向かってうろおいの文化都市をめざす
人は市の誇りである
ところのふれあいを求め友情の輪をひろげよう
恵まれた自然はいのちの泉である
みどりを守りやすらぎの街を創ろう
こどもは市の宝である
胸深く刻まれるふるさとを伝えよう
所沢市は市民のためにある
一人ひとりが自らまちづくりを進めよう

編集後記・野老

▶ 街路樹の新緑が鮮やかとなり季節の移り変わりを感じさせます▶ 広報ところざわも新たな連載コーナーとして、みんなの広場「防犯一口メモ」「レッツ ボランティア」「ところざわの文化財 歴史再発見」、情報館「ストップ! 温暖化」がスタート▶ 皆さんに愛される紙面を目指しますので引き続きご愛読ください。